The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	現代新聞語彙における“基本語化”と“非基本語化’’ : 使用率・均等度の平均変化率を用いた量的検討
Author(s)	石井, 正彦
Citation	阪大日本語研究. 2022, 34, p. 1-25
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/88188
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『阪大日本語研究』34（2022）

現代新聞語彙における“基本語化”と“非基本語化”
――使用率・均等度の平均変化率を用いた量的検討――

Changes in the basic vocabulary of modern newspapers：A quantitative study focusing on the lexical dispersions

石井 正彦
ISHII Masahiko

キーワード：基本語彙、（非）基本語化、通時コーパス、語彙調査、基本度、語彙散布度

要旨

計量的な基本語彙史研究のための一試論として、現代（20世紀半ば以降）の新聞語彙を対象に、基本語化および非基本語化した語の取り出しを試みた。『毎日新聞』をデータとする通時コーパスを用い、使用率の変化を必要条件、均等度（語彙散布度）の変化を十分条件として、それぞれの（1960年から2010年までの50年間における）平均変化率を観測年すべてに使用例のあった語のみを対象に測定し、基本語化・非基本語化ともに100語程度の候補語を抽出した。得られた候補語を語種・品詞の語類別に整理すると、基本語化においては漢語名詞（サ変可能）・外来語名詞の多さが、非基本語化においては和語副詞・漢語副詞の多さが目立つ結果となった。また、基本語化の度合いが最も大きい和語動詞「明かす」について用例を検討した結果、その《明らかにする内容》を表す文法形式が、おおよそ「～ヲ」（ヲ格補語）から「～コトヲ」（コト節）、「～ト」（ト節）へと拡大し、とくにト節の用法の増加が「明かす」の基本語化に大きく関与している可能性を見出した。

1. はじめに

語彙の中心部にあって歴史的に変化しにくいといわれる基本語彙の、そのメンバー（語）の出入り（基本語化と非基本語化）を計量的に見出す。具体的には、1960年から2010年までの『毎日新聞』の記事文章を10年おきに収めたコーパスを用いて、この期間の新聞語彙において基本語化および非基本語化した語の取り出しを試みる。この作業により、コーパスと語彙調査にもとづく「計量的な基本語彙史研究」のための足掛かりを得ることをめざす。以下、前提となる概念・用語の規定を行い（２節）、調査の目的を明確にした上で（３節）、利用するコーパスと語彙調査によるデータ作成法（４節）、基本語化・非基本語化した語を取り出す方法論（５節）について説明し、抽出の結果（６節）および抽出した候補語について簡単な考察（７節）を加えて、今後の課題（８節）を述べる。

2. 前提

2.1. 基本語彙

語彙論でいう「基本語彙」については、質的な規定と量的な規定とが可能である。前者には、たとえば森岡（1977:215）の次のような記述があてはまる。

> 現在、基本語彙というのは、使用度数によってきめられがちであるが、語の構造や性質から考察することがより重要ではないかと思う。すなわち、これらの一次名が基本語彙の資格を備えていると考えるのであるが、その理由は、
> （1）一語基からなりそれ以下の単位に分解できない。
> （2）知識体系の第一次的枠組みを構成している。
> （3）造語機能が高く、これを基準にして多くの語を生産する。
> （4）長い歴史を通して受継がれた語彙で新たに造語することができない。
> などであって、一語基の和語名は特にその性質を備えている。

後者の量的な規定には、たとえば水谷（1964:7-8）の次のような記述がある。

> 様々の言語表現によく現われる（見出し）語を組として考えたものが基本語彙である。（中略）「よく現われる語」だという事は、基本語彙という集合Sに属する元である任意の見出し語uと、Sに属しない見出し語vとについて、前者の使用率が後者のそれより（概して）大きい事を含意する。（中略）「様々の言語表現に現われる語」だという事は、特殊な分野にだけよく使われるのでなく、（概して）広く満遍なく使われるような語である事を含意する。

この「広く満遍なく使われる」度合いを「均等度」と呼ぶことにすると、量的に規定される基本語彙とは、要するに「使用率が大きく、かつ、均等度が大きい語の集合」ということになる。語の使用率と均等度は語彙調査によって知ることができるが、とりわけ均等度を求めるには層別[1)]を施した語彙調査が必要になる。これについては、樺島（1980:345）の次のような記述がわかりやすい。

> 基本語彙とは、使用率が大きく、しかも対象とする言語作品あるいは言語体系の中に幾つかの層を設けて考えることができる場合（たとえば雑誌であれば、実用記事・文芸作

品・趣味など掲載する内容別の層を設け、また平安時代物語であれば作品別に層を設けることができる)、できるだけ多くの層にわたって出現する語の集合をいう。

このように、いくつかに分けられた異なる層に(概して)均等に現れる(使用率の大きな)語があれば、それを基本語彙のメンバーとし得るわけであるが、ここには少し複雑な問題が潜んでいる。その一つは、層別はいろいろな観点から行うことができるから、どのような観点から層別するかによって語の均等度が変わる(=基本語彙のメンバーが変わる)という問題であり、いま一つは、層別というものは基本的に層の間の違いに注目し、各層の特徴語を見出すために行うものである(=層の違いに左右されず均等に現れる語の抽出をめざして行われるものではない)から、たとえ均等度の大きな語を得たとしても、それらの語の特徴や性質を積極的に規定することが難しいという問題である。

たとえば、国立国語研究所の「新聞三紙の語彙調査」(1966年)では、話題分野別(政治、経済、社会、文化、スポーツ、家庭、娯楽などの12区分)、文種別(ニュース、解説、社説・コラム、評論、実用読み物、探訪ルポなどの17区分)、情報源記載形式別(一般無記名記事、通信社記事、冒頭記名記事、末尾記名記事などの10区分)、記事内位置別(見出し、標題・欄名、リード、本文などの8区分)の4つの観点から層別が行われている(林1969)が、語の均等度はこれら4種の層別ごとに求めることができるから、それぞれの結果から異なる4種の基本語彙が得られることになる。しかも、それぞれの基本語彙は、「話題の違いにかかわらず高使用率で使われる語」とか「文種の違いにかかわらず高使用率で使われる語」とかいうように、消極的にしか規定できない。

このような問題はあるものの、これまでの語彙調査、とりわけ書きことばの語彙調査のほとんどは、上でいう話題分野の違いによる層別にもとづいて基本語彙を求めようとしてきた。そこには、書きことばすなわち文章を組み立てる(使用率の大きな)語彙を、以下のように大きく二分してとらえる見方があるものと考えられる。

グループ1　いろいろな分野で共通に使われる、文章表現の土台を形作る語
グループ2　その文章、あるいは文章群のテーマやムードに強く関わる語

(樺島2004:63)

いま、文章というものを「話題について何事かを述べる=叙述する」ものと考えれば、グループ1は文章の叙述(文章表現)の側面にかかわる語、グループ2は文章の話題(テーマやムード)の側面にかかわる語ととらえることができる。そして、この2種の語群がある程度分離す

るものと仮定するなら、話題分野の違いによる層別の場合は、グループ１は各層に共通して使われるために均等度が大きくなり、グループ２は話題によって使われるかどうかが異なるために均等度が小さくなる。一方、新聞調査の「文種」のように叙述のタイプや方法の違いによる層別の場合は、逆に、グループ１は叙述の違いに応じて使われるかどうかが異なるために均等度が小さくなり、グループ２は叙述の違いに関係なく使われ得るために均等度が大きくなる、ということが考えられる。要するに、書きことばの基本語彙は、グループ１の「叙述系の基本語彙」である場合もグループ２の「話題系の基本語彙」である場合もあり得るのだが、これまでの語彙調査では前者を追究してきた、ということである。これは、書きことばについて、何を話題とすることが多いかという問題と、どのような叙述を行うことが多いかという問題の、どちらが重要であるかを考えれば、ごく自然な選択であろう。書きことばの基本語彙とは基本的には叙述系の基本語彙である、ということを確認しておく必要がある。

2.2. 基本語化・非基本語化

先に引用した森岡（1977:215）が「基本語彙の資格」の一つとして「長い歴史を通して受継がれた語彙で新たに造語することができない」ことをあげているように、基本語彙は歴史的に変化しにくいと考えられる。

樺島（1981:86）は、平安時代文学基本語彙の現代での残存率などをもとに、「その言語において、使用率が大きく、使用範囲も広い基本的な語（見出し語）を二〇〇ないし五〇〇語集めて作った基本語彙においては、千年につき、九〇－八〇パーセントの率で残存する」と法則化し、後にはこれを「使用度数が大きく、いろいろな分野で共通に使われている語には、生命が長い、生命力が強いものが多い」とまとめている（樺島 2004:59）。「いろいろな分野で共通に使われている語」とあることから、これは上のグループ１の語について述べたもののように思えるが、挙げられている残存語にはグループ２と考えられる語も多く、要するに、樺島（2004:62）が「生活にとってぜひとも必要で、しかも全人類に共通して使わざるを得ない意味項目」「われわれ日本人が生活していく上でどうしても使わなければならない、自然物の名称、衣食住に関わる言葉、日本の文化に強い結びつきがある語」とする語を中心とした（グループ１・２を区別しない）基本語彙の中の最も中核的な語集合の生命力について述べたものと解することができる。

逆に言えば、書きことばの基本語彙のように、こうした（歴史的に変化しにくい）最中核部の外側になお叙述系や話題系の基本語の層が想定されるような場合は、そのような外側の層の部分で語の出入りが生じていることが考えられる。たとえば、宮島（1967）は、国立国語研究所の「雑誌九十種の語彙調査」（1956年）で得られた上位1000 語が歴史上いつごろから使われ

ているかを調べる中で、明治時代には漢語の抽象名詞が、大正・昭和時代には外来語の具体名詞が現れ、増えた可能性に（「今度の調査だけでは、そういう結論をだすのは、まだ早すぎる」としながらも）言及している。また、石井（2013）は、上の九十種調査と、同じ国語研究所の「月刊雑誌70 誌の語彙調査」（1994年）の結果とを比較し、現在は、それに次ぐ第三の段階として、外来語の抽象名詞が増え、基本語彙の中に進出している時期ではないかとしている。

こうした基本語彙のマクロな変化は、個別の語が新たに基本語彙の仲間入りをする「基本語化」と、逆に基本語彙から外れる「非基本語化」というミクロな変化とをその内実としている。結局のところ、基本語彙の変化を明らかにするには、このようなミクロな変化をとらえなければならないのだが、そのためには、個々の語の使用の変動を観察し得る大規模な通時コーパスと、それらの変動を基本語化ないし非基本語化と確認するための計量的な方法論とが必要になる。基本語化・非基本語化は、基本語彙の変化から当然想定される現象であるが、それを実際に確認することは容易ではない。

国立国語研究所の「中央公論の経年調査」（国立国語研究所 1987）は、基本語彙の変化をとらえることを直接の目標に掲げてはいないが、1906～1976年の雑誌『中央公論』から10年おきに各年延べ1万語を抽出したコーパスを作成し、それに同じ調査単位による語彙調査を施すことによって語彙および個々の語の変化を正確にとらえようとした点で、この種の試みの先駆と言えるものである。とくに、各語の各年の使用頻度をすべての年の組み合わせについて比較し、“古＜新”なら＋1点、“古＞新”なら－1点を与えて合計する「増加傾向得点」によって、この期間に「ふえた語・へった語」を導いたことは、基本語化・非基本語化した語の発見にもつながる重要な試みである。

基本語化した語の発見と記述を直接の目標としたものには、金愛蘭氏による「20 世紀後半の新聞における外来語の基本語化」の研究と、田中牧郎氏による「明治後期から大正期の総合雑誌における漢語の基本語化」の研究がある。

金（2011）は、1950 年から2000 年までの『毎日新聞』から、10 年おきに各年平均200 万字を超える大規模な通時コーパスを作成し、得られたすべての外来語について上の「増加傾向得点」を算出して、20 世紀後半の新聞において基本語化した可能性の高い抽象的な外来語を取り出した。また、「トラブル」「ケース」をはじめとするいくつかの外来語について、それぞれの基本語化の過程を、類義語となる和語・漢語との関係をも明らかにしながら記述するとともに、それらの基本語化の背景に、現代の新聞文章の概略化傾向がこうした（類義語の上位語となる）抽象的・非分析的な外来語を必要とする流れがあるのではないか、との見方を示した。なお、「基本語化」という用語は金（2006）が最初に用いたものである。

田中（2013）は、国立国語研究所において自身がその構築を主導した雑誌『太陽』のコーパ

ス（国立国語研究所 2005）を用いて、所収の記事をその発表年代によって５期に分け、かつ、各期の語彙を頻度順語彙表における累積使用率（カバー率）に基づいて５段階にレベル分けし、下位のレベルから上位のレベルに移動していく 200 語あまりを、この期間において「基本語化」した語としている。そのうち、とくに漢語に注目し、「実現」「表現」「出現」など基本語化する漢語と、その類義の和語「あらわす」「あらわれる」とについて、それぞれの意味変化の方向性を具体的に記述し、「実現」の意味が和語にはない意味領域を補うように変化すること、「表現」の意味変化が和語の意味変化と同じ方向性を持つことなどを指摘して、漢語が基本語化する背景には、より基本的な位置にある和語の影響や、和語との間での緊密な意味関係の構築があったとしている。

金氏と田中氏の研究は、書きことばの基本語彙の中に前述した「叙述系の基本語彙」に相当する部分があり、それが文章の叙述方法の変容によって新たな外来語や漢語を仲間入りさせながら変化している、という可能性を示したものである。ただし、そうした見通しをより確実なものとするには、両氏が実現した大規模な通時コーパスの構築とは別に、基本語化・非基本語化を確認するための計量的な方法論の検討が重要になってくる。なぜなら、増加傾向得点を用いる金（2011）の方法も、カバー率に基づくレベル分けを用いる田中（2013）の方法も、基本語彙の二つの基準のうちの使用率のみを用い、均等度を考慮していないからである。基本語化・非基本語化を確認するためには、均等度の変化をみないわけにはいかない。

3. 目的

現代（20 世紀半ば以降）の新聞語彙を対象に、基本語化した語、非基本語化した語を取り出すことを試みる。そのために、個々の語の使用率と均等度の変化を観察し得る通時コーパスを用意し、それらをもとに基本語化・非基本語化した語を抽出するための、使用率の変化だけでなく、均等度の変化をも考慮した計量的な方法を検討・開発する。

新聞の語彙を対象とするのは、書きことばの代表的な文章ジャンルの一つであり、また、戦後以降、その文章の叙述面に（「平易化」「話しことばへの接近」「概略化傾向」などといった）少なからぬ変化が生じており、それに伴って、その（叙述系の）基本語彙にも変化が生じていると考えるからである。

4. データ

4.1. コーパス

資料とする通時コーパスには、金愛蘭氏が元版を作成し、筆者もその後の増補・改訂に共同研究者として協力した『毎日新聞経年コーパス』（第３版）を用いる。このコーパスは、1950年から2010年までの『毎日新聞』（全国版）から、ほぼ10年おきに、毎月３日分（5・15・25日）、各年36日分の朝刊各紙面（地方版、小説、広告、テレビ・ラジオ欄等を除く）の記事文章（見出しと本文）を、1950～80年は『縮刷版』からテキスト入力し、1991～2010年については『CD－毎日新聞データ集』から（毎日新聞社の許諾を得て）抽出して作成したプレーンコーパスである（詳しくは、金（2022）を参照）。コーパスのデータ量（文字数）は表１のとおり。本稿では、ページ数が１日当たり４ページ程度と極端に少なく紙面の区分がなされていない1950年を除いて、1960年以降を用いる。

表１　『毎日新聞経年コーパス』（第３版）のデータ量

	1950年	1960年	1970年	1980年	1991年	2000年	2010年
文字数	793,692	2,208,396	3,183,297	3,218,737	3,265,786	3,994,933	3,119,875

4.2. 語彙調査

語彙調査（語彙表の作成）には、国立国語研究所が公開・提供しているアプリケーション『Web茶まめ』（堤・小木曽 2015）による形態素解析機能と、マイクロソフト社製“Excel 2019”の表計算機能を用いる。『Web茶まめ』を利用することにより、今回は、調査単位として国語研究所が『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）に用いた「短単位」（ただし、「品詞大分類」の「助詞」「助動詞」「補助記号」を除く）を採用し、単位切りと同語異語判別（見出し語の立て方）、品詞や語種の分類もこれに従うことになる[2)]。

語彙表作成の具体的な手順は、まず、『毎日新聞経年コーパス』（第３版）の６年分（1960・70・80・91・2000・10年）のデータを年別に６ファイルに分けて『Web茶まめ』による形態素解析を行い、それぞれの解析結果を“Excel”にインポートして、ピボットテーブル機能を使って語彙表にまとめた後、それら６つの年別語彙表をさらにピボットテーブル機能を使って一つの全体語彙表にまとめる、というものである。後述する使用率と語彙散布度、それぞれの平均変化率の計算も、この“Excel”上の語彙表の中で行う。

語彙調査による各年の語彙量は、表２のとおり。

表２　『毎日新聞経年コーパス』（第３版）の語彙量（短単位）

	1960年	1970年	1980年	1991年	2000年	2010年	計
延べ語数	812901	1141752	1184980	1203893	1321623	1158828	7720745
異なり語数	33141	37422	37812	35527	39412	36183	76204

4.3. 層別

前述したように、書きことばの基本語彙として「叙述系の基本語彙」に注目する場合は、話題（内容）の違いによる層別を施した上で、全体での使用率が大きく、かつ、各層での使用率の均等度が大きい語を抽出することになる。その際、一つの語の均等度を異なる年で比較するには、各年のデータサイズとその層別の内訳（構成比）が等しくなければならない。しかし、現実の新聞から得たデータでそれを正確に実現することは難しい。実際には、層の数や分類を同じにした上で、各年の語彙量やその層別構成比ができるだけ近くなるよう層別することで満足しなければならないことが多い。

表３は、表２の年別延べ語数について、各年の紙面（記事種別）別の内訳をまとめ、総延べ語数の多い紙面から順に配列したものである。縮刷版（1960・70・80年）の紙面（種別）分類と『CD－毎日新聞データ集』（1991・2000・2010年）の「記事種別」分類とが必ずしも一致しないことに注意を要するが、すべての年に共通するのは、〈社会〉〈スポーツ〉〈経済〉〈一面〉〈総合〉〈国際〉〈家庭〉〈特集〉〈社説〉〈読書〉の10紙面（種別）である。このうち、〈総合〉〈特集〉〈社説〉の３紙面は話題別の分類とは言えず、また、〈読書〉は語彙量が少なすぎるため、いずれも除くことにし、残る〈一面〉〈国際〉〈経済〉〈家庭〉〈スポーツ〉〈社会〉の６紙面をもって層別とすることにしたい。〈一面〉も話題に限定はないが、語彙量も多く、基本的には〈政治〉関係の記事が多いと考えて対象に含めることにする。

表４はこのようにして設定した層別の各年語彙量（延べ語数）を示し、図１はその100％構成比を示している。これを見ても、各年のデータサイズとその層別構成比にはなお少なからぬ違いがあり、均等度の算出結果を不安定なものにする可能性が高い。この問題については、均等度の測定法（次節5.2.）によって多少の改善を図ることにしたい。

表３　各年・各紙面（記事種別）の延べ語数（短単位）

	1960年	1970年	1980年	1991年	2000年	2010年	計
社会	100691	195599	139933	255564	161134	129875	982796
スポーツ	97924	111058	111741	137744	219038	249304	926809
経済	77609	159829	166268	107570	129993	113326	754595
一面	117322	101441	98481	109634	59956	50567	537401
総合	61729	34769	163119	20960	113439	86123	480139
国際	37367	34284	100677	108945	119735	66259	467267
家庭	62683	66459	80119	65346	81310	110608	466525
特集	19948	52519	51544	47649	94112	85011	350783
二面				126702	86937	62252	275891
社説	27611	36474	29813	37427	80820	56596	268741
三面				121181	75516	64292	260989
内政	2847	113894	111320				228061
解説		60005		36948	52416	35444	184813
外電	76751	67155					143906
投書	20408	17249	86200				123857
読書	10391	18082	27088	16554	28263	11957	112335
科学	3605		14333	8915	14375	18614	59842
学芸	55330						55330
意見		29009					29009
文化					4579	15562	20141
読者の広場		17585					17585
商工	12684						12684
グラビア日曜版		11760					11760
わが国土	11565						11565
週刊展望	10079						10079
健康		8447					8447
芸能				2754		3038	5792
相談	5127						5127
展望		4757					4757
雑記帳	1230	1377	1143				3750
日曜くらぶ			1601				1601
住宅			1600				1600

表４　各年層別の延べ語数（短単位）

	一面	国際	経済	家庭	スポーツ	社会	計
1960年	117322	37367	77609	62683	97924	100691	493596
1970年	101441	34284	159829	66459	111058	195599	668670
1980年	98481	100677	166268	80119	111741	139933	697219
1991年	109634	108945	107570	65346	137744	255564	784803
2000年	59956	119735	129993	81310	219038	161134	771166
2010年	50567	66259	113326	110608	249304	129875	719939

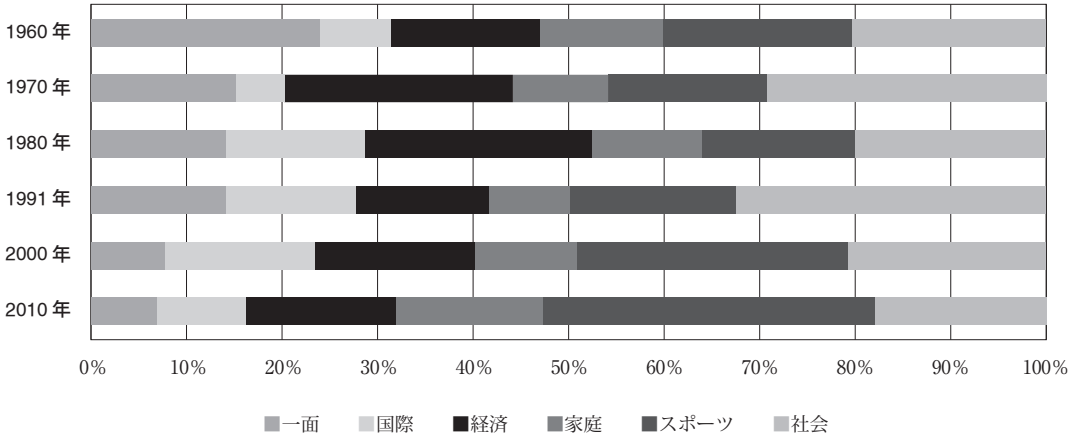

図１　各年延べ語数（短単位）の層別構成比

5. 方法論

5.1. 基本度

先に、量的に規定される基本語彙とは「使用率が大きく、かつ、均等度が大きい語の集合」であると規定した。計量語彙論では、語彙調査で得た語の集合から基本語彙のメンバーを選定（抽出）する際に、使用率と均等度を変数とする関数として「基本度」（「使用度」「有用度」などとも）を設定し、語を基本度の大きさの順に一次元に並べて、その上位にあるものを基本語彙のメンバーとする、という方法を採ることが多い。

たとえば、初期の提案として、Juilland & Chang-Rodriguez（1964）は、使用頻度Ｆと均等度（ただし、散布度の１の補数）Ｄの積（Ｕ＝Ｆ×Ｄ）を語の一般的な使用度（Usage：Ｕ）

とし、水谷（1964）は、使用率Pと散らばり度SCを変数とする線形判別関数（Z=－6.0226＋1.5825logP－0.4181logSC[3)]）を基本度としている。

なお、ここまで「均等度」としてきた概念は、それと表裏の関係にある「散布度」（散らばり度）という形で計算されることが多い。すなわち、「均等度が大きい」とは「散布度が小さい」ということであり、逆に、「均等度が小さい」ということは「散布度が大きい」ということである。本稿では、基本的に「均等度」を用いるが、これ以降、必要に応じて「散布度」ないし「語彙散布度」を用いることもあるので注意されたい。

さて、基本度が計算できるのであれば、基本語化・非基本語化の判定も各語の基本度の増減に依ればよいことになる。ただ、上のように、基本度は使用率と均等度を変数として求められるものであるから、たとえば均等度が変わらなくとも使用率が大きくなればその語の基本度は増加するということになる。２節で検討したように、書きことばの基本語彙とは叙述系の基本語彙であり、話題の異なる層別において（全体の使用率が大きいということよりも）均等度が大きいということを重視すべきであろうから、使用率の増減と均等度の増減を別々に測り、前者をいわば必要条件、後者を十分条件とみなした方が適当ではないかと考えられる。すなわち、基本語化の場合なら、使用率の増加を前提の条件とし、その上で均等度も増加しているものをそれとする、また、非基本語化の場合なら、使用率の減少を前提の条件とし、その上で均等度も減少しているものをそれとする、という具合である。

以上により、本稿では、基本度関数に依らず、使用率の変化と均等度の変化を別個に測って基本語化・非基本語化の指標とすることにしたい。

5.2. 均等度（語彙散布度）

使用率と均等度のうち、その測定法が問題となるのは後者である。上述したように、均等度は散布度の裏返しであるから、一般的な統計指標である範囲（レンジ）、最大値最小値比、標準偏差、χ^2値などによって測ることもできるが、計量語彙論では、上述したJuilland & Chang-Rodriguez（1964）や水谷（1964）をはじめとして独自の計算法が提案されてきた（これらを一般的な統計指標としての「散布度」と区別して「語彙散布度」と呼ぶことがある）。たとえば、Juilland & Chang-Rodriguez（1964）のDは注目する語がとる各層の使用頻度の変動係数を層の数で割ったものを基本にしているし、水谷（1964）のSCは層間分散を最大層間分散で割ったもの（木村・山田1994:5）である。他にもいくつかの計算法が提案されているが、いまだ定まった方法はないようである。

このように、語彙散布度については様々な考え方・計算法が提案されているが、本稿では、Gries（2008）が提案するDP（deviation of proportions）という指標を採用したい。Gries

（2008:414-415）によれば、この指標は、（i）語彙項目の散布度を定量化することができ、（ii）コーパスの部分（層）のサイズが均等であるという不当な仮定に依存せず、（iii）感度が高すぎず低すぎず、（iv）統計的有意性の指標ではないため、仮説検定パラダイムの理論的問題を回避でき、（v）理論的には少なくとも0から1の範囲をとるという利点がある。とくに重要なのは（ii）である。前節末で述べたように、本稿のデータは、各年の語彙量、各層の構成比が等しくないため、一つの語について得た各年の均等度を比較することが難しい。DPはこの困難さを緩和してくれる可能性がある[4)]。

いま、表5のような語彙表があるとき、語WのDPは次のように求められる。すなわち、ある層S_iでの、語Wの構成比f_i/F（実測比率）と語彙Vの構成比t_i/T（期待比率）との偏差の絶対値$|f_i/F-t_i/T|$を求め（表6）、それらの総和（表7の「計」）を2で割った値（$[\Sigma|f_i/F-t_i/T|]/2$）である。DPの値は0以上1以下の範囲をとり、0に近いほど散布度が小さく（均等度が大きく）、1に近いほど散布度が大きい（均等度が小さい）。このようにDPは、ある層で観測された語の割合と、その層が全体（コーパス）に占める割合の違い（絶対差）をベースにしているため、各層のサイズ（語彙量）が異なるデータでも扱うことができるとされる。

表5　語彙表における語Wと語彙Vの頻度

語＼層	S_1	S_2	…	S_n	計
：					：
：					：
W	f_1	f_2	…	f_n	F
：					：
：					：
V	t_1	t_2	…	t_n	T

表6　語Wの期待値偏差

語＼層	S_1	S_2	…	S_n	計
：					
：					
W	$\lvert f_1/F-t_1/T\rvert$	$\lvert f_2/F-t_2/T\rvert$	…	$\lvert f_n/F-t_n/T\rvert$	$\Sigma\lvert f_i/F-t_i/T\rvert$
：					
：					

5.3. 平均変化率

使用率および均等度（語彙散布度DP）の増減を測るのにもいくつかの方法があるが、本稿では最も一般的な方法の一つである「平均変化率」を採用する。平均変化率とは、変化率（（変化後の値－変化前の値）／変化前の値）の幾何平均で、今回のデータの場合は、1960年から2010年までの隣り合う観測年5対の変化率を求め、それらの積の5乗根を求めればよい。

ただし、平均変化率は計算式の分母となる「変化前の値」が0をとると計算できないため、使用頻度0の観測年がある語については適用できない。それを回避するためにすべての語の使用頻度に1を足して頻度0の観測年をなくすことも考えられるが、DPの基となる構成比（実測比率と期待比率）の値が変わってしまうため、ここでは採らない。

そこで、今回は、使用頻度0の観測年を含まない、すなわち、期間（1960～2010年）のすべての観測年（6か年）に使用例のある語のみを対象として、基本語化・非基本語化した語を抽出することにする。

5.4. 抽出の基準と方法

5.1.で述べた「基本語化の場合なら、使用率の増加を前提の条件とし、その上で均等度も増加しているものをそれとする、また、非基本語化の場合なら、使用率の減少を前提の条件とし、その上で均等度も減少しているものをそれとする」という抽出法の具体的な手順（基準と方法）については、実際の数値を挙げながら、次節で説明する。

6. 結果

今回は、基本語化・非基本語化したと考えられる語の、その確実性を高めるために、どちらも100語程度の候補に絞り込むこととした。設定した抽出の基準や適用の順序が変われば、当然のことながら、得られる結果も変わってしまうことに留意する必要がある。以下、基本語化・非基本語化それぞれに、抽出の手順とその結果を示す。

6.1. 基本語化の候補語

期間（1960年～2010年）のすべての観測年に現れる11,831語のうち、

①1960年に、全25991語中の使用率順上位10％までの2599語（実際には使用頻度30以上の2608語、累積使用率上位77.6％）の中になく、かつ、

②2010年に、全29512語中の使用率順上位10％までの2951語（実際には使用頻度35以上の2933語、累積使用率上位79.9％）の中にあり、かつ、

③1960年から2010年までの使用率の平均変化率が1.1以上であり、かつ、

④2010年に、DPの昇順上位2000語（実際にはDP0.316未満の2013語）の中にあり、かつ、

⑤1960年から2010年までのDPの平均変化率が0.95以下の149語から、

⑥固有名詞36語、記号7種を除いた106語

を、基本語化した語の候補とした。①～③は、使用率が確実に増加している語に限定する（＝使用率を必要条件とする）ための手順、④⑤は、その上で、語彙散布度DPが確実に減少している語を取り出す（＝均等度を十分条件とする）ための手順である。⑥では、叙述系基本語彙の範囲外にある固有名詞と記号を除いている。

なお、⑥で除いた固有名詞は次の通り。

シンガポール、ヒロユキ、マサヒロ、ユウコ、サクライ、サトシ、ケイ、コウジ、アツシ、ヤマト、ケンイチ、ウエダ、チョウ、タカオ、キタ、マキ、モリ、ボク、ミヤザキ、ムラヤマ、ワダ、フクイ、オオヤ、タケシ、シミズ、ワカヤマ、ナリタ、ジャパン、ナカガワ、ユタカ、ヤマガタ、フジイ、ミエ、ヒトシ、ナラ、ツヨシ

同じく除いた記号7種は次の通り。

X、E、N、H、G、K、T

表7に、基本語化した語の候補（106語）をDPの平均変化率の昇順に示す。

表7　基本語化した語の候補（使用率は‰）

No.	語彙素	品詞	語種	1960 使用率	1970 使用率	1980 使用率	1991 使用率	2000 使用率	2010 使用率	使用率 平均変化率	1960 DP	1970 DP	1980 DP	1991 DP	2000 DP	2010 DP	DP平均 変化率
1	明かす	動詞	和	0.006	0.004	0.017	0.011	0.027	0.060	1.579	0.726	0.707	0.347	0.424	0.320	0.078	0.641
2	ネット	名詞	外	0.012	0.028	0.027	0.025	0.340	0.176	1.707	0.598	0.465	0.419	0.491	0.614	0.102	0.702
3	担う	動詞	和	0.006	0.010	0.016	0.023	0.053	0.057	1.564	0.687	0.281	0.254	0.258	0.159	0.138	0.726
4	イメージ	名詞	外	0.002	0.061	0.047	0.068	0.104	0.092	2.144	0.802	0.345	0.231	0.214	0.214	0.163	0.727
5	スーパー	名詞	外	0.004	0.043	0.201	0.127	0.161	0.136	2.020	0.796	0.234	0.476	0.414	0.477	0.163	0.728
6	明言	名詞	漢	0.002	0.007	0.010	0.032	0.035	0.049	1.888	0.762	0.561	0.429	0.401	0.306	0.172	0.742
7	流通	名詞	漢	0.018	0.088	0.122	0.070	0.054	0.058	1.262	0.494	0.541	0.620	0.590	0.440	0.117	0.749
8	名	名詞	漢	0.038	0.051	0.044	0.084	0.078	0.108	1.230	0.348	0.133	0.217	0.140	0.120	0.083	0.750
9	ビデオ	名詞	外	0.006	0.018	0.013	0.082	0.056	0.072	1.641	0.796	0.512	0.450	0.303	0.290	0.192	0.752
10	交流	名詞	漢	0.045	0.046	0.067	0.139	0.144	0.185	1.329	0.337	0.470	0.318	0.253	0.310	0.085	0.760
11	取り組み	名詞	和	0.020	0.016	0.019	0.029	0.051	0.072	1.289	0.802	0.352	0.215	0.300	0.160	0.208	0.764
12	繋げる	動詞	和	0.002	0.001	0.006	0.010	0.030	0.061	1.977	0.802	0.761	0.316	0.687	0.243	0.224	0.775
13	前向き	形状詞	和	0.006	0.039	0.037	0.034	0.052	0.050	1.524	0.605	0.340	0.428	0.362	0.173	0.176	0.781
14	文科	名詞	漢	0.008	0.001	0.001	0.003	0.004	0.058	1.484	0.720	0.707	0.885	0.536	0.791	0.211	0.783
15	職	名詞	漢	0.038	0.042	0.050	0.062	0.058	0.129	1.274	0.431	0.235	0.286	0.235	0.226	0.128	0.784
16	囲碁	名詞	漢	0.002	0.004	0.006	0.048	0.038	0.071	2.036	0.924	0.707	0.561	0.648	0.367	0.277	0.786
17	込める	動詞	和	0.018	0.022	0.034	0.042	0.038	0.064	1.285	0.336	0.423	0.171	0.264	0.190	0.102	0.788
18	メッセージ	名詞	外	0.006	0.019	0.020	0.047	0.032	0.056	1.557	0.762	0.505	0.784	0.398	0.219	0.232	0.788

No.	語彙素	品詞	語種	1960 使用率	1970 使用率	1980 使用率	1991 使用率	2000 使用率	2010 使用率	使用率 平均変化率	1960 DP	1970 DP	1980 DP	1991 DP	2000 DP	2010 DP	DP平均 変化率
19	レベル	名詞	外	0.022	0.039	0.090	0.111	0.110	0.096	1.339	0.463	0.362	0.366	0.202	0.196	0.144	0.791
20	体調	名詞	漢	0.004	0.006	0.036	0.034	0.044	0.085	1.837	0.802	0.834	0.645	0.630	0.445	0.252	0.793
21	複数	名詞	漢	0.006	0.010	0.027	0.065	0.071	0.124	1.827	0.558	0.396	0.399	0.226	0.194	0.180	0.797
22	受け止める	動詞	和	0.004	0.027	0.044	0.080	0.049	0.063	1.728	0.675	0.249	0.148	0.252	0.335	0.218	0.798
23	ファン	名詞	外	0.041	0.147	0.126	0.099	0.092	0.138	1.277	0.652	0.518	0.491	0.324	0.406	0.211	0.798
24	インタビュー	名詞	外	0.006	0.018	0.086	0.068	0.058	0.051	1.533	0.675	0.407	0.249	0.250	0.310	0.219	0.798
25	隠す	動詞	和	0.036	0.036	0.059	0.068	0.061	0.081	1.172	0.373	0.275	0.270	0.335	0.295	0.123	0.801
26	普段	名詞	漢	0.038	0.015	0.053	0.040	0.031	0.064	1.107	0.564	0.408	0.426	0.319	0.360	0.196	0.809
27	コメント	名詞	外	0.002	0.012	0.011	0.059	0.057	0.143	2.343	0.802	0.406	0.304	0.203	0.121	0.289	0.815
28	ランク	名詞	外	0.002	0.034	0.013	0.042	0.047	0.053	1.919	0.802	0.269	0.355	0.597	0.444	0.294	0.819
29	前線	名詞	漢	0.014	0.016	0.030	0.031	0.035	0.054	1.307	0.796	0.706	0.427	0.271	0.264	0.295	0.820
30	選択	名詞	漢	0.012	0.042	0.063	0.093	0.166	0.088	1.484	0.473	0.340	0.362	0.353	0.283	0.176	0.821
31	下がる	動詞	和	0.030	0.082	0.077	0.065	0.064	0.068	1.175	0.516	0.207	0.354	0.354	0.240	0.199	0.827
32	将棋	名詞	漢	0.004	0.004	0.020	0.040	0.077	0.093	1.872	0.797	0.541	0.587	0.642	0.279	0.309	0.827
33	位置	名詞	漢	0.051	0.046	0.079	0.094	0.091	0.126	1.201	0.355	0.228	0.189	0.206	0.167	0.140	0.830
34	神	名詞	和	0.022	0.042	0.043	0.040	0.284	0.053	1.188	0.487	0.401	0.376	0.348	0.446	0.193	0.831
35	詳細	名詞	漢	0.020	0.036	0.022	0.029	0.018	0.053	1.211	0.587	0.391	0.314	0.318	0.231	0.232	0.831
36	人生	名詞	漢	0.006	0.042	0.072	0.052	0.054	0.092	1.721	0.669	0.520	0.425	0.309	0.259	0.271	0.834
37	探る	動詞	和	0.012	0.042	0.052	0.047	0.051	0.064	1.394	0.508	0.206	0.204	0.345	0.340	0.209	0.837
38	対応	名詞	漢	0.014	0.043	0.232	0.268	0.335	0.404	1.954	0.619	0.420	0.373	0.294	0.339	0.255	0.837
39	バランス	名詞	外	0.041	0.033	0.056	0.046	0.067	0.069	1.114	0.476	0.137	0.217	0.243	0.153	0.200	0.841
40	若手	名詞	和	0.030	0.028	0.065	0.090	0.052	0.076	1.202	0.735	0.623	0.551	0.430	0.416	0.311	0.842
41	反応	名詞	漢	0.030	0.082	0.082	0.069	0.075	0.063	1.155	0.358	0.184	0.144	0.279	0.155	0.152	0.843
42	合格	名詞	漢	0.026	0.046	0.129	0.066	0.039	0.061	1.183	0.592	0.509	0.469	0.319	0.275	0.257	0.846
43	メンバー	名詞	外	0.055	0.090	0.109	0.161	0.169	0.144	1.214	0.579	0.241	0.261	0.202	0.167	0.252	0.847
44	カード	名詞	外	0.041	0.045	0.067	0.102	0.054	0.121	1.244	0.575	0.229	0.220	0.304	0.180	0.252	0.848
45	移動	名詞	漢	0.028	0.046	0.040	0.059	0.051	0.054	1.138	0.331	0.419	0.226	0.144	0.236	0.146	0.849
46	増す	動詞	和	0.047	0.040	0.067	0.038	0.048	0.079	1.112	0.327	0.401	0.214	0.202	0.181	0.145	0.850
47	交代	名詞	漢	0.047	0.055	0.053	0.062	0.089	0.126	1.221	0.291	0.217	0.175	0.262	0.193	0.131	0.852
48	近年	名詞	漢	0.004	0.013	0.007	0.013	0.018	0.071	1.772	0.675	0.499	0.460	0.202	0.239	0.303	0.852
49	受賞	名詞	漢	0.022	0.040	0.076	0.154	0.115	0.118	1.396	0.440	0.337	0.526	0.344	0.444	0.203	0.857
50	週	名詞	漢	0.045	0.061	0.062	0.078	0.052	0.079	1.122	0.426	0.344	0.376	0.473	0.342	0.198	0.857
51	イン	名詞	外	0.030	0.039	0.040	0.043	0.041	0.068	1.175	0.668	0.526	0.546	0.298	0.372	0.313	0.859
52	観戦	名詞	漢	0.014	0.013	0.009	0.028	0.036	0.058	1.327	0.598	0.735	0.639	0.415	0.289	0.283	0.861
53	支える	動詞	和	0.020	0.057	0.066	0.094	0.086	0.129	1.448	0.439	0.295	0.225	0.075	0.175	0.211	0.864
54	振り返る	動詞	和	0.010	0.027	0.040	0.068	0.082	0.151	1.718	0.473	0.405	0.332	0.372	0.214	0.228	0.864
55	未来	名詞	漢	0.006	0.058	0.032	0.027	0.034	0.049	1.516	0.635	0.174	0.262	0.264	0.238	0.310	0.866
56	食事	名詞	漢	0.022	0.036	0.066	0.064	0.086	0.072	1.265	0.615	0.483	0.516	0.617	0.458	0.301	0.866
57	事	接尾辞	漢	0.016	0.021	0.033	0.094	0.032	0.051	1.260	0.433	0.129	0.213	0.439	0.488	0.214	0.868
58	床	名詞	和	0.020	0.016	0.029	0.025	0.023	0.050	1.198	0.497	0.351	0.380	0.366	0.366	0.250	0.872
59	広報	名詞	漢	0.014	0.024	0.020	0.103	0.071	0.069	1.374	0.431	0.229	0.329	0.369	0.322	0.217	0.872
60	変動	名詞	漢	0.030	0.028	0.029	0.048	0.034	0.050	1.105	0.605	0.556	0.420	0.363	0.392	0.304	0.872
61	光	名詞	和	0.018	0.051	0.065	0.064	0.089	0.115	1.446	0.482	0.196	0.325	0.277	0.291	0.243	0.872
62	タイプ	名詞	外	0.022	0.043	0.075	0.082	0.057	0.049	1.169	0.584	0.289	0.398	0.561	0.408	0.295	0.873
63	分析	名詞	漢	0.038	0.111	0.072	0.135	0.123	0.129	1.274	0.424	0.157	0.239	0.151	0.192	0.217	0.875
64	弾	接尾辞	漢	0.034	0.046	0.044	0.057	0.062	0.074	1.164	0.426	0.343	0.288	0.157	0.288	0.221	0.877
65	同士	接尾辞	漢	0.053	0.084	0.063	0.074	0.062	0.088	1.107	0.405	0.290	0.262	0.204	0.131	0.218	0.883
66	島	名詞	和	0.032	0.052	0.043	0.122	0.088	0.068	1.160	0.312	0.362	0.214	0.298	0.250	0.168	0.883

No.	語彙素	品詞	語種	1960 使用率	1970 使用率	1980 使用率	1991 使用率	2000 使用率	2010 使用率	使用率 平均変化率	1960 DP	1970 DP	1980 DP	1991 DP	2000 DP	2010 DP	DP平均 変化率
67	確り	副詞	和	0.022	0.033	0.032	0.043	0.045	0.128	1.418	0.402	0.598	0.588	0.359	0.250	0.217	0.884
68	甘い	形容詞	和	0.045	0.072	0.069	0.080	0.101	0.072	1.101	0.235	0.312	0.391	0.334	0.276	0.127	0.885
69	直後	名詞	漢	0.038	0.126	0.125	0.129	0.110	0.164	1.336	0.243	0.279	0.215	0.109	0.168	0.132	0.885
70	名人	名詞	漢	0.022	0.004	0.036	0.042	0.061	0.081	1.293	0.522	0.707	0.618	0.523	0.260	0.285	0.886
71	残念	形状詞	漢	0.032	0.046	0.066	0.055	0.045	0.065	1.150	0.362	0.313	0.299	0.200	0.111	0.198	0.886
72	崩す	動詞	和	0.036	0.036	0.052	0.047	0.067	0.085	1.184	0.367	0.366	0.280	0.284	0.259	0.201	0.887
73	手術	名詞	漢	0.032	0.106	0.083	0.092	0.077	0.114	1.286	0.544	0.429	0.409	0.397	0.296	0.303	0.890
74	僕	代名詞	漢	0.038	0.173	0.079	0.079	0.109	0.089	1.182	0.290	0.390	0.379	0.435	0.229	0.163	0.892
75	疑惑	名詞	漢	0.014	0.028	0.109	0.098	0.136	0.056	1.314	0.544	0.338	0.566	0.383	0.473	0.307	0.892
76	優先	名詞	漢	0.057	0.058	0.077	0.104	0.108	0.131	1.181	0.458	0.379	0.346	0.194	0.348	0.262	0.894
77	生まれ	名詞	和	0.032	0.031	0.066	0.064	0.064	0.057	1.119	0.470	0.462	0.413	0.217	0.326	0.272	0.896
78	ハウス	名詞	外	0.043	0.037	0.059	0.088	0.104	0.074	1.116	0.308	0.317	0.612	0.598	0.233	0.182	0.900
79	異なる	動詞	和	0.024	0.027	0.040	0.069	0.062	0.063	1.208	0.363	0.333	0.217	0.206	0.285	0.218	0.903
80	光	接尾辞	漢	0.012	0.016	0.014	0.037	0.049	0.054	1.348	0.502	0.474	0.339	0.328	0.312	0.303	0.904
81	誌	接尾辞	漢	0.020	0.091	0.085	0.066	0.056	0.050	1.198	0.287	0.425	0.299	0.319	0.321	0.174	0.905
82	兄弟	名詞	漢	0.028	0.045	0.050	0.047	0.041	0.051	1.126	0.439	0.324	0.324	0.253	0.284	0.268	0.906
83	現役	名詞	漢	0.028	0.037	0.062	0.074	0.080	0.086	1.249	0.487	0.381	0.537	0.638	0.474	0.299	0.907
84	表示	名詞	漢	0.034	0.069	0.056	0.057	0.515	1.288	2.063	0.292	0.239	0.654	0.297	0.293	0.181	0.909
85	築く	動詞	和	0.010	0.028	0.034	0.042	0.035	0.049	1.368	0.331	0.366	0.245	0.276	0.386	0.208	0.911
86	世紀	名詞	漢	0.012	0.054	0.067	0.110	0.337	0.071	1.423	0.396	0.269	0.211	0.280	0.137	0.249	0.911
87	撮影	名詞	漢	0.020	0.019	0.017	0.037	0.054	0.124	1.436	0.497	0.349	0.434	0.315	0.236	0.313	0.911
88	冷静	名詞	漢	0.020	0.030	0.032	0.036	0.035	0.053	1.211	0.464	0.232	0.320	0.187	0.204	0.298	0.915
89	同級	名詞	漢	0.030	0.022	0.029	0.041	0.025	0.067	1.170	0.475	0.583	0.539	0.436	0.370	0.307	0.916
90	テーマ	名詞	外	0.018	0.046	0.072	0.113	0.101	0.068	1.301	0.449	0.139	0.384	0.454	0.316	0.291	0.917
91	頑張る	動詞	混	0.036	0.066	0.080	0.117	0.095	0.151	1.329	0.360	0.439	0.506	0.390	0.309	0.234	0.918
92	和	名詞	漢	0.020	0.034	0.016	0.020	0.047	0.053	1.211	0.337	0.182	0.517	0.362	0.277	0.220	0.918
93	認識	名詞	漢	0.032	0.043	0.080	0.107	0.130	0.083	1.208	0.279	0.386	0.375	0.402	0.368	0.183	0.919
94	瞬間	名詞	漢	0.041	0.031	0.053	0.046	0.047	0.069	1.114	0.452	0.303	0.450	0.249	0.207	0.300	0.921
95	止める	動詞	和	0.055	0.064	0.059	0.088	0.071	0.113	1.155	0.373	0.278	0.465	0.310	0.374	0.253	0.926
96	公表	名詞	漢	0.038	0.097	0.095	0.150	0.141	0.165	1.338	0.424	0.351	0.286	0.284	0.279	0.290	0.927
97	思い	名詞	和	0.051	0.052	0.093	0.135	0.119	0.253	1.379	0.431	0.326	0.270	0.265	0.227	0.305	0.933
98	笑顔	名詞	和	0.012	0.021	0.033	0.071	0.088	0.113	1.561	0.336	0.377	0.394	0.427	0.346	0.241	0.936
99	貢献	名詞	漢	0.028	0.034	0.040	0.166	0.058	0.082	1.236	0.312	0.304	0.198	0.331	0.232	0.225	0.937
100	外部	名詞	漢	0.012	0.013	0.037	0.020	0.030	0.079	1.455	0.236	0.404	0.522	0.342	0.250	0.170	0.937
101	児	接尾辞	漢	0.053	0.117	0.099	0.073	0.060	0.104	1.146	0.400	0.544	0.394	0.433	0.599	0.289	0.937
102	限定	名詞	漢	0.024	0.022	0.024	0.069	0.052	0.063	1.208	0.363	0.425	0.302	0.418	0.248	0.265	0.939
103	多	接頭辞	漢	0.034	0.018	0.013	0.311	0.045	0.064	1.132	0.342	0.234	0.346	0.398	0.267	0.251	0.940
104	終わり	名詞	和	0.030	0.049	0.043	0.038	0.025	0.056	1.128	0.275	0.213	0.273	0.085	0.192	0.209	0.947
105	取り組む	動詞	和	0.051	0.102	0.112	0.122	0.127	0.142	1.228	0.242	0.333	0.274	0.248	0.250	0.185	0.948
106	感謝	名詞	漢	0.032	0.036	0.026	0.029	0.038	0.097	1.246	0.357	0.296	0.414	0.255	0.404	0.275	0.949

6.2. 非基本語化の候補語

期間（1960年～2010年）のすべての観測年に現れる11,831語のうち、

①1960年に、全25991語中の使用率順上位10％までの2599語（実際には使用頻度30以上の2608語、累積使用率上位77.6％）の中にあり、かつ、

②2010年に、全29512語中の使用率順上位10％までの2951語（実際には使用頻度35以上の2933語、累積使用率上位79.9％）の中になく、かつ、

③1960年から2010年までの使用率の平均変化率が0.9以下であり、かつ、

④1960年に、DPの昇順上位2000語（実際にはDP0.342未満の1997語）の中にあり、かつ、

⑤1960年から2010年までのDPの平均変化率が1.05以上の131語から、

⑥固有名詞6語、数詞16語、名詞（助動詞語幹）1語を除いた108語

を、非基本語化した語の候補とした。①～③は、使用率が確実に減少している語に限定するための手順、④⑤は、その上で、語彙散布度DPが確実に増加している語を取り出すための手順である。⑥では、叙述系基本語彙の範囲外にある固有名詞と数詞を除いている。

⑥で除いた固有名詞は次の通り。

日ソ、マニラ、国鉄、ハコネ、アメリカ、フィリピン

同じく除いた数詞16語は次の通り[5)]。

三四、二十、四百、八十、三百、三千、七千、四十、四五、五六、五千、五十、八百、七十、二千、九十

なお、以下の名詞（助動詞語幹）1語も除いた。

そう（伝聞）

表8に、非基本語化した語の候補（108語）をDPの平均変化率の降順に示す。

表8　非基本語化した語の候補（使用率は‰）

No.	語彙素	品詞	語種	1960 使用率	1970 使用率	1980 使用率	1991 使用率	2000 使用率	2010 使用率	使用率 平均変化率	1960 DP	1970 DP	1980 DP	1991 DP	2000 DP	2010 DP	DP平均 変化率
1	兎も角	副詞	和	0.071	0.057	0.040	0.014	0.006	0.007	0.628	0.090	0.210	0.244	0.330	0.362	0.576	1.451
2	序で	名詞	和	0.107	0.051	0.027	0.005	0.005	0.001	0.419	0.152	0.124	0.373	0.641	0.739	0.846	1.409
3	始末	名詞	漢	0.065	0.043	0.026	0.010	0.009	0.006	0.612	0.150	0.392	0.279	0.437	0.257	0.776	1.389
4	腹	名詞	和	0.079	0.057	0.046	0.036	0.053	0.031	0.827	0.095	0.210	0.212	0.389	0.417	0.393	1.329
5	一応	名詞	漢	0.172	0.103	0.044	0.018	0.005	0.006	0.503	0.132	0.177	0.282	0.394	0.402	0.509	1.310
6	標準	名詞	漢	0.083	0.063	0.023	0.033	0.052	0.029	0.811	0.176	0.400	0.512	0.489	0.423	0.641	1.295
7	特派	名詞	漢	0.209	0.280	0.383	0.027	0.004	0.003	0.422	0.265	0.353	0.520	0.483	0.352	0.908	1.279
8	益々	副詞	和	0.101	0.054	0.065	0.041	0.031	0.015	0.685	0.124	0.093	0.213	0.453	0.410	0.416	1.274
9	後	名詞	和	0.142	0.039	0.024	0.009	0.003	0.003	0.455	0.246	0.285	0.305	0.399	0.636	0.820	1.273
10	一行	名詞	漢	0.099	0.072	0.036	0.025	0.009	0.003	0.489	0.257	0.286	0.335	0.087	0.493	0.846	1.269
11	愈	副詞	和	0.118	0.045	0.026	0.011	0.016	0.011	0.624	0.137	0.310	0.234	0.352	0.235	0.401	1.240
12	止む	動詞	和	0.061	0.066	0.044	0.059	0.022	0.026	0.846	0.138	0.237	0.137	0.158	0.391	0.403	1.238
13	連	名詞	漢	0.192	0.069	0.052	0.046	0.032	0.044	0.746	0.185	0.346	0.169	0.305	0.453	0.529	1.234
14	当然	副詞	漢	0.093	0.064	0.037	0.025	0.017	0.010	0.636	0.170	0.138	0.237	0.214	0.303	0.465	1.222
15	初め	名詞	和	0.095	0.115	0.168	0.115	0.054	0.043	0.853	0.100	0.086	0.169	0.132	0.281	0.270	1.220
16	正午	名詞	漢	0.083	0.078	0.027	0.148	0.069	0.021	0.758	0.238	0.298	0.481	0.467	0.459	0.620	1.211

No.	語彙素	品詞	語種	1960 使用率	1970 使用率	1980 使用率	1991 使用率	2000 使用率	2010 使用率	使用率 平均変化率	1960 DP	1970 DP	1980 DP	1991 DP	2000 DP	2010 DP	DP平均 変化率
17	猶	接続詞	和	0.373	0.187	0.070	0.024	0.021	0.024	0.576	0.114	0.139	0.055	0.388	0.273	0.291	1.206
18	寧ろ	副詞	和	0.164	0.087	0.089	0.037	0.047	0.017	0.633	0.171	0.249	0.196	0.227	0.315	0.434	1.205
19	型	名詞	和	0.071	0.013	0.019	0.006	0.012	0.004	0.567	0.332	0.456	0.590	0.741	0.402	0.838	1.204
20	式	接尾辞	漢	0.085	0.060	0.056	0.410	0.253	0.043	0.873	0.090	0.165	0.370	0.578	0.555	0.225	1.202
21	相当	副詞	漢	0.103	0.022	0.030	0.014	0.006	0.015	0.682	0.204	0.144	0.287	0.506	0.554	0.509	1.201
22	適当	名詞	漢	0.087	0.073	0.046	0.020	0.016	0.004	0.544	0.240	0.417	0.255	0.349	0.398	0.597	1.200
23	着	接尾辞	和	0.093	0.072	0.024	0.011	0.006	0.008	0.617	0.179	0.359	0.383	0.379	0.326	0.443	1.199
24	主	名詞	和	0.069	0.064	0.040	0.031	0.014	0.004	0.571	0.294	0.237	0.252	0.334	0.426	0.728	1.199
25	団長	名詞	漢	0.083	0.094	0.029	0.027	0.017	0.006	0.582	0.206	0.328	0.216	0.311	0.536	0.491	1.190
26	戦前	名詞	漢	0.093	0.043	0.024	0.024	0.014	0.011	0.654	0.161	0.093	0.190	0.188	0.338	0.379	1.187
27	親善	名詞	漢	0.067	0.037	0.032	0.011	0.027	0.021	0.792	0.254	0.634	0.431	0.713	0.364	0.587	1.182
28	すっかり	副詞	和	0.093	0.075	0.039	0.032	0.008	0.010	0.636	0.243	0.275	0.243	0.341	0.402	0.561	1.182
29	或いは	接続詞	和	0.103	0.126	0.120	0.034	0.023	0.014	0.669	0.186	0.209	0.290	0.345	0.350	0.427	1.180
30	半面	名詞	漢	0.069	0.042	0.030	0.023	0.034	0.019	0.777	0.216	0.351	0.410	0.363	0.293	0.489	1.178
31	波	名詞	和	0.075	0.034	0.037	0.059	0.045	0.032	0.843	0.152	0.256	0.370	0.263	0.257	0.343	1.176
32	直す	動詞	和	0.065	0.025	0.044	0.014	0.035	0.028	0.844	0.156	0.324	0.356	0.559	0.386	0.346	1.173
33	可成	副詞	混	0.300	0.218	0.143	0.046	0.044	0.022	0.594	0.159	0.174	0.217	0.159	0.338	0.347	1.169
34	農民	名詞	漢	0.126	0.081	0.040	0.020	0.016	0.006	0.536	0.334	0.339	0.427	0.453	0.767	0.728	1.169
35	移る	動詞	和	0.077	0.088	0.070	0.061	0.040	0.031	0.831	0.086	0.154	0.217	0.047	0.192	0.184	1.165
36	酷い	形容詞	和	0.113	0.103	0.066	0.040	0.019	0.019	0.703	0.253	0.196	0.293	0.269	0.208	0.541	1.164
37	立法	名詞	漢	0.087	0.049	0.027	0.033	0.027	0.004	0.544	0.320	0.427	0.568	0.529	0.598	0.684	1.164
38	多少	名詞	漢	0.075	0.040	0.046	0.010	0.012	0.006	0.594	0.235	0.277	0.349	0.530	0.493	0.500	1.163
39	出掛ける	動詞	和	0.071	0.054	0.065	0.042	0.030	0.022	0.793	0.222	0.335	0.551	0.361	0.425	0.471	1.163
40	弾力	名詞	漢	0.069	0.034	0.017	0.011	0.006	0.011	0.694	0.289	0.392	0.512	0.529	0.571	0.597	1.156
41	ラジオ	名詞	外	0.103	0.046	0.052	0.052	0.039	0.040	0.828	0.206	0.297	0.256	0.300	0.367	0.410	1.147
42	世話	名詞	漢	0.061	0.037	0.056	0.047	0.034	0.022	0.818	0.336	0.249	0.428	0.348	0.416	0.659	1.144
43	はっきり	副詞	和	0.223	0.224	0.172	0.078	0.058	0.029	0.666	0.123	0.063	0.110	0.152	0.226	0.241	1.143
44	通達	名詞	漢	0.061	0.031	0.006	0.110	0.001	0.008	0.672	0.338	0.208	0.561	0.467	0.922	0.657	1.142
45	今度	名詞	漢	0.482	0.426	0.176	0.070	0.057	0.036	0.596	0.142	0.140	0.048	0.165	0.192	0.276	1.142
46	却って	副詞	和	0.081	0.049	0.027	0.013	0.021	0.017	0.729	0.192	0.289	0.426	0.463	0.192	0.369	1.140
47	大体	名詞	漢	0.077	0.031	0.007	0.006	0.005	0.004	0.558	0.174	0.449	0.544	0.638	0.598	0.333	1.138
48	大いに	副詞	和	0.093	0.043	0.030	0.013	0.008	0.014	0.683	0.253	0.355	0.155	0.378	0.316	0.476	1.135
49	静か	形状詞	和	0.071	0.052	0.039	0.020	0.023	0.032	0.853	0.250	0.385	0.262	0.271	0.336	0.472	1.135
50	方面	名詞	漢	0.103	0.027	0.044	0.011	0.016	0.007	0.583	0.289	0.317	0.497	0.480	0.386	0.528	1.128
51	可成	形状詞	混	0.069	0.084	0.072	0.024	0.018	0.003	0.526	0.311	0.272	0.142	0.306	0.248	0.562	1.126
52	依然	副詞	漢	0.107	0.103	0.108	0.087	0.065	0.035	0.798	0.333	0.319	0.289	0.379	0.458	0.600	1.125
53	暫く	副詞	和	0.061	0.049	0.043	0.028	0.030	0.021	0.807	0.260	0.284	0.347	0.104	0.113	0.466	1.124
54	許可	名詞	漢	0.095	0.109	0.075	0.088	0.065	0.036	0.824	0.256	0.297	0.370	0.370	0.536	0.458	1.124
55	台風	名詞	漢	0.115	0.094	0.042	0.050	0.008	0.028	0.752	0.256	0.524	0.489	0.238	0.378	0.454	1.122
56	博士	名詞	漢	0.087	0.084	0.062	0.023	0.025	0.015	0.706	0.325	0.335	0.399	0.278	0.162	0.574	1.120
57	渡米	名詞	漢	0.061	0.012	0.014	0.006	0.008	0.006	0.620	0.272	0.244	0.441	0.402	0.507	0.473	1.117
58	鉄	接尾辞	漢	0.077	0.070	0.069	0.057	0.070	0.043	0.890	0.309	0.326	0.345	0.369	0.482	0.534	1.116
59	若し	副詞	和	0.164	0.135	0.110	0.046	0.047	0.046	0.775	0.205	0.153	0.182	0.230	0.273	0.353	1.115
60	余り	形状詞	和	0.073	0.076	0.039	0.043	0.044	0.031	0.840	0.242	0.155	0.243	0.096	0.206	0.412	1.113
61	経つ	動詞	和	0.073	0.100	0.075	0.050	0.049	0.040	0.888	0.200	0.250	0.183	0.145	0.214	0.336	1.109
62	定期	名詞	漢	0.097	0.094	0.113	0.129	0.079	0.044	0.855	0.267	0.228	0.229	0.333	0.304	0.447	1.108
63	取り付ける	動詞	和	0.071	0.042	0.037	0.042	0.038	0.017	0.749	0.302	0.216	0.292	0.445	0.392	0.504	1.108
64	改定	名詞	漢	0.152	0.057	0.080	0.011	0.056	0.033	0.738	0.299	0.426	0.442	0.640	0.637	0.496	1.107

No.	語彙素	品詞	語種	1960 使用率	1970 使用率	1980 使用率	1991 使用率	2000 使用率	2010 使用率	使用率 平均変化率	1960 DP	1970 DP	1980 DP	1991 DP	2000 DP	2010 DP	DP平均 変化率
65	尤も	接続詞	和	0.071	0.057	0.053	0.011	0.016	0.008	0.652	0.269	0.273	0.268	0.307	0.303	0.443	1.105
66	公社	名詞	漢	0.075	0.091	0.139	0.029	0.032	0.010	0.665	0.293	0.270	0.282	0.637	0.389	0.479	1.103
67	ダム	名詞	外	0.099	0.030	0.004	0.023	0.019	0.043	0.846	0.325	0.311	0.420	0.480	0.552	0.528	1.102
68	結成	名詞	漢	0.081	0.064	0.055	0.073	0.035	0.026	0.799	0.275	0.258	0.339	0.282	0.382	0.447	1.102
69	取り上げる	動詞	和	0.138	0.078	0.079	0.043	0.032	0.035	0.759	0.221	0.153	0.327	0.160	0.368	0.356	1.100
70	無視	名詞	漢	0.075	0.072	0.082	0.062	0.041	0.026	0.812	0.293	0.192	0.170	0.252	0.248	0.469	1.098
71	両日	名詞	漢	0.109	0.061	0.082	0.043	0.029	0.013	0.648	0.318	0.139	0.241	0.124	0.194	0.505	1.097
72	詰まり	副詞	和	0.124	0.141	0.122	0.034	0.026	0.007	0.562	0.206	0.214	0.341	0.289	0.367	0.327	1.097
73	楽	名詞	漢	0.067	0.049	0.049	0.041	0.035	0.018	0.770	0.341	0.320	0.431	0.554	0.499	0.539	1.096
74	食う	動詞	和	0.065	0.049	0.040	0.020	0.023	0.017	0.762	0.176	0.198	0.153	0.292	0.207	0.277	1.095
75	恐れる	動詞	和	0.063	0.045	0.055	0.031	0.029	0.032	0.874	0.188	0.264	0.155	0.403	0.331	0.293	1.092
76	分ける	動詞	和	0.073	0.097	0.059	0.075	0.058	0.042	0.894	0.258	0.244	0.291	0.317	0.198	0.397	1.090
77	短縮	名詞	漢	0.061	0.030	0.029	0.036	0.036	0.018	0.784	0.305	0.445	0.214	0.387	0.452	0.465	1.088
78	実情	名詞	漢	0.075	0.075	0.043	0.024	0.023	0.029	0.828	0.316	0.278	0.246	0.272	0.251	0.479	1.087
79	遂に	副詞	和	0.097	0.094	0.062	0.024	0.021	0.024	0.753	0.210	0.164	0.175	0.298	0.253	0.312	1.083
80	一切	名詞	漢	0.075	0.081	0.059	0.052	0.029	0.028	0.820	0.240	0.162	0.307	0.128	0.376	0.354	1.080
81	代わり	名詞	和	0.097	0.075	0.073	0.059	0.040	0.044	0.855	0.258	0.210	0.309	0.256	0.191	0.378	1.080
82	地帯	名詞	漢	0.087	0.106	0.116	0.046	0.031	0.032	0.818	0.308	0.195	0.346	0.424	0.511	0.450	1.079
83	一杯	副詞	漢	0.061	0.052	0.027	0.024	0.022	0.019	0.796	0.237	0.326	0.158	0.433	0.450	0.346	1.079
84	取り扱い	名詞	和	0.095	0.073	0.047	0.029	0.022	0.007	0.592	0.274	0.256	0.298	0.363	0.505	0.397	1.077
85	会館	名詞	漢	0.124	0.115	0.076	0.173	0.093	0.039	0.794	0.214	0.221	0.365	0.459	0.436	0.310	1.077
86	根本	名詞	漢	0.071	0.046	0.034	0.022	0.014	0.017	0.749	0.301	0.254	0.255	0.158	0.376	0.434	1.076
87	撒く	動詞	和	0.061	0.027	0.024	0.019	0.021	0.013	0.729	0.308	0.497	0.567	0.269	0.530	0.444	1.076
88	所謂	連体詞	和	0.107	0.081	0.063	0.014	0.017	0.014	0.664	0.295	0.294	0.275	0.403	0.354	0.419	1.072
89	折	名詞	和	0.075	0.061	0.029	0.005	0.008	0.011	0.683	0.332	0.266	0.241	0.454	0.406	0.471	1.072
90	進歩	名詞	漢	0.093	0.040	0.024	0.011	0.019	0.018	0.720	0.318	0.183	0.332	0.201	0.248	0.450	1.072
91	権利	名詞	漢	0.099	0.087	0.083	0.094	0.045	0.043	0.846	0.274	0.232	0.206	0.210	0.264	0.386	1.071
92	程	名詞	和	0.201	0.187	0.156	0.094	0.025	0.017	0.608	0.307	0.222	0.269	0.253	0.581	0.430	1.070
93	注	名詞	漢	0.069	0.060	0.039	0.003	0.027	0.007	0.632	0.307	0.372	0.369	0.780	0.468	0.426	1.068
94	一旦	副詞	漢	0.071	0.078	0.052	0.048	0.038	0.026	0.821	0.263	0.229	0.204	0.140	0.248	0.365	1.067
95	大衆	名詞	漢	0.126	0.070	0.034	0.019	0.017	0.010	0.599	0.338	0.210	0.325	0.728	0.328	0.465	1.066
96	者	名詞	和	0.113	0.106	0.115	0.093	0.051	0.046	0.834	0.278	0.214	0.262	0.255	0.324	0.381	1.065
97	早急	形状詞	漢	0.087	0.057	0.047	0.036	0.036	0.014	0.693	0.274	0.398	0.264	0.513	0.277	0.370	1.062
98	ビール	名詞	外	0.115	0.094	0.096	0.062	0.036	0.039	0.804	0.272	0.274	0.393	0.331	0.512	0.366	1.061
99	範囲	名詞	漢	0.107	0.105	0.069	0.085	0.074	0.042	0.828	0.271	0.258	0.162	0.267	0.283	0.362	1.060
100	十分	副詞	漢	0.180	0.138	0.095	0.069	0.040	0.033	0.713	0.214	0.173	0.134	0.082	0.184	0.285	1.059
101	約束	名詞	漢	0.079	0.121	0.138	0.087	0.092	0.046	0.897	0.329	0.159	0.163	0.310	0.326	0.438	1.059
102	申し入れる	動詞	和	0.107	0.079	0.037	0.040	0.014	0.008	0.600	0.322	0.190	0.304	0.200	0.622	0.425	1.057
103	期する	動詞	混	0.067	0.025	0.034	0.015	0.017	0.019	0.781	0.337	0.296	0.347	0.360	0.331	0.441	1.055
104	盛ん	形状詞	和	0.065	0.078	0.044	0.024	0.017	0.019	0.786	0.292	0.164	0.129	0.373	0.171	0.381	1.055
105	要する	動詞	混	0.089	0.033	0.034	0.013	0.018	0.013	0.675	0.342	0.343	0.252	0.280	0.102	0.443	1.053
106	一斉	名詞	漢	0.077	0.072	0.059	0.069	0.049	0.036	0.860	0.269	0.160	0.202	0.203	0.216	0.346	1.052
107	近代	名詞	漢	0.115	0.088	0.125	0.034	0.023	0.019	0.700	0.271	0.252	0.215	0.269	0.519	0.349	1.052
108	大勢	名詞	混	0.075	0.049	0.043	0.040	0.040	0.031	0.836	0.200	0.285	0.214	0.219	0.210	0.256	1.051

7. 考察

以上の抽出結果の妥当性を判断するためには、各候補語のこの期間における使用上の変化が「基本語化」ないし「非基本語化」と呼ぶにふさわしいものであるかを具体的に検討していく必要がある。そうしたいわば質的な分析の方法と結果については別稿を期すこととし、以下では、そのための予備的な考察として、基本語化・非基本語化の候補語の特徴を語類レベルで概観し、また、基本語化の度合いの最も顕著な候補語「明かす」を例に、その用法の量的変化と基本語化との関係について簡単な分析を試みる。

7.1. 語類の概観

表７・８に示したそれぞれの候補語を、語種・品詞の語類別に表９にまとめた。両者を比べると、基本語化においては漢語名詞（サ変可能）・外来語名詞の多さが、非基本語化においては和語副詞・漢語副詞（・和語接続詞）の多さが目立っている。ここには、ハンス・エガースのいう「現代の名詞文体」に通じる変化、すなわち、現代の新聞が「できるかぎりわずかの語によって、できるかぎり多くの情報を与える」「凝縮された簡潔な表現」（Eggers1973=1975:71-72）を重視する傾向の強まりをうかがうことができる。もちろん、その検証や更なる追究は今後の課題としなければならない。

表９　基本語化・非基本語化した候補の語類（語の後の（　）内は表７・８のNo.）

	基本語化	非基本語化
和語名詞	**【10語】**取り組み（11）、神（34）、若手（40）、床（58）、光（61）、島（66）、生まれ（77）、思い（97）、笑顔（98）、終わり（104）	**【12語】**序で（2）、腹（4）、後（9）、初め（15）、型（19）、主（24）、波（31）、代わり（81）、取り扱い（84）、折（89）、程（92）、者（96）
和語動詞	**【16語】**明かす（1）、担う（3）、繋げる（12）、込める（17）、受け止める（22）、隠す（25）、下がる（31）、探る（37）、増す（46）、支える（53）、振り返る（54）、崩す（72）、異なる（79）、築く（85）、止める（95）、取り組む（105）	**【12語】**止む（12）、直す（32）、移る（35）、出掛ける（39）、経つ（61）、取り付ける（63）、取り上げる（69）、食う（74）、恐れる（75）、分ける（76）、撒く（87）、申し入れる（102）
和語形状詞	**【1語】**前向き（13）	**【3語】**静か（49）、余り（60）、盛ん（104）
和語形容詞	**【1語】**甘い（68）	**【1語】**酷い（36）
和語副詞	**【1語】**確り（67）	**【12語】**兎も角（1）、益々（8）、愈（11）、寧ろ（18）、すっかり（28）、はっきり（43）、却って（46）、大いに（48）、暫く（53）、若し（59）、詰まり（72）、遂に（79）

	基本語化	非基本語化
和語接続詞		【3語】猶（17）、或いは（29）、尤も（65）
和語連体詞		【1語】所謂（88）
和語接尾辞		【1語】着（23）
漢語名詞	【24語】名（8）、文科（14）、職（15）、囲碁（16）、体調（20）、複数（21）、普段（26）、前線（29）、将棋（32）、詳細（35）、人生（36）、近年（48）、週（50）、未来（55）、直後（69）、名人（70）、疑惑（75）、兄弟（82）、現役（83）、世紀（86）、冷静（88）、同級（89）、瞬間（94）、外部（100）	【31語】一応（5）、標準（6）、一行（10）、連（13）、正午（16）、適当（22）、団長（25）、戦前（26）、半面（30）、農民（34）、多少（38）、弾力（40）、今度（45）、大体（47）、方面（50）、台風（55）、博士（56）、定期（62）、公社（66）、両日（71）、実情（78）、一切（80）、地帯（82）、会館（85）、根本（86）、権利（91）、注（93）、大衆（95）、範囲（99）、一斉（106）、近代（107）
漢語名詞（サ変可能）	【26語】 明言（6）、流通（7）、交流（10）、選択（30）、位置（33）、対応（38）、反応（41）、合格（42）、移動（45）、交代（47）、受賞（49）、観戦（52）、食事（56）、広報（59）、変動（60）、分析（63）、手術（73）、優先（76）、表示（84）、撮影（87）、和（92）、認識（93）、公表（96）、貢献（99）、限定（102）、感謝（106）	【15語】始末（3）、特派（7）、親善（27）、立法（37）、世話（42）、通達（44）、許可（54）、渡米（57）、改定（64）、結成（68）、無視（70）、楽（73）、短縮（77）、進歩（90）、約束（101）
漢語代名詞	【1語】僕（74）	
漢語形状詞	【1語】残念（71）	【1語】早急（97）
漢語副詞		【6語】当然（14）、相当（21）、依然（52）、一杯（83）、一旦（94）、十分（100）
漢語接頭辞	【1語】多（103）	
漢語接尾辞	【6語】事（57）、弾（64）、同士（65）、光（80）、誌（81）、児（101）	【2語】式（20）、鉄（58）
外来語名詞	【14語】 ネット（2）、スーパー（5）、ビデオ（9）、メッセージ（18）、レベル（19）、ファン（23）、ランク（28）、バランス（39）、メンバー（43）、カード（44）、イン（51）、タイプ（62）、ハウス（78）、テーマ（90）	【3語】ラジオ（41）、ダム（67）、ビール（98）
外来語名詞（サ変可能）	【3語】イメージ（4）、インタビュー（24）、コメント（27）	
混種語名詞		【1語】大勢（108）

	基本語化	非基本語化
混種語動詞	【1語】頑張る（91）	【2語】期する（103）、要する（105）
混種語形状詞		【1語】可成（51）
混種語副詞		【1語】可成（33）

7.2. 個別候補語の分析：「明かす」の場合

得られた候補語のうち、基本語化の度合いが最も大きいと考えられる和語動詞「明かす」（表7のNo.1）について、基本語化の過程をやや詳しく追ってみた。表10に、「明かす」の各年・各層での期待値偏差（期待比率と実測比率の絶対差）をまとめた。また、参考までに各年・各層の使用頻度も添えた。

その上で、「明かす」のコーパスにおける用例を検討すると、全91例中85例が（1）（2）のような《明らかにする、明るみに出す、はっきりさせる、打ち明ける》意であった。

（1）名前をあかさないで運動資金にと金一封を置いて行く人が毎日のように出てくるとのことで（略）（1960年〈国際〉）

（2）目黒――法大でフッカー、フランカーなどで鳴らした幡鎌孝彦監督（四○）は「勇気が要ったが、従来の数と量をこなすスパルタ練習をこのチームからやめた」と明かす。（1991年〈スポーツ〉）

そして、その《明らかにする内容》とそれに付属する文法形式が明示された71例について、文法形式ごとにその使用量の推移をまとめたのが表11である。

これを見ると、まず、1960年・70年・80年は、1960年の〈スポーツ〉の1例を除いて、すべて～ヲ（ヲ格補語）である。1991年になって、～コトヲ（コト節）、～ト（ト節）も加わるが、まだ多くない。2000年になると用例数は倍増するが、増えたのは～ヲ（ヲ格補語）と～ト（ト節）で、～コトヲ（コト節）は増えていない。2010年にはさらに増え、～コトヲ（コト節）も増えるが、～ト（ト節）が使用頻度・出現紙面（層）のいずれにおいても最も多くなる。要するに、1960年以降の50年間で、おおよそ、～ヲ（ヲ格補語）から～コトヲ（コト節）、～ト（ト節）に拡大したが、とくに～ト（ト節）の使用の増加が「明かす」の基本語化に大きく関与している（新聞の叙述において「～と明かす」という叙述法が一般化してきた）ことが推測されるのである。

表10 「明かす」の使用頻度・期待値偏差・DPの推移

年	使用頻度						期待値偏差						DP
	一面	国際	経済	家庭	スポーツ	社会	一面	国際	経済	家庭	スポーツ	社会	
1960		2			1		0.238	0.591	0.157	0.127	0.135	0.204	0.726
1970						3	0.152	0.051	0.239	0.099	0.166	0.707	0.707
1980	3	4	2			3	0.109	0.189	0.072	0.115	0.160	0.049	0.347
1991		3			1	5	0.140	0.195	0.137	0.083	0.064	0.230	0.424
2000	4	5		1	4	7	0.113	0.083	0.169	0.058	0.094	0.124	0.320
2010	6	4	5	5	15	8	0.069	0.001	0.041	0.037	0.003	0.006	0.078

表11 「明かす」の《明らかにする内容》を表す文法形式の量的推移

年	層（紙面）	～ヲ	～コトヲ	～ト	～ト～ヲ	計
1960	国際	1				2
	スポーツ				1	
1970	社会	1				1
1980	一面					4
	国際	1				
	経済	2				
	社会	1				
1991	国際	1				7
	スポーツ			1		
	社会	1	2	1	1	
2000	一面	2	1		1	16
	国際			4		
	家庭	1				
	スポーツ	1		1		
	社会	3		2		
2010	一面			6		41
	国際		1	2		
	経済	3		2		
	家庭	3	1	1		
	スポーツ	3	7	3	2	
	社会	1	2	3	1	
計		25	14	26	6	71

8. 課題

今回得た候補語の基本語化・非基本語化について、「明かす」について試みたような具体的な変化過程の解明を進めなければならない。そこに有意味な過程やその要因が見出せれば、今回の抽出結果や方法論に一定の妥当性・有効性を認めることができるだろう。そのためにも、どのような叙述法の拡大や縮小が基本語化・非基本語化にかかわっているのか、用例にもとづく検討が重要になってくる。

今回は、形態素相当の「短単位」による語彙調査となったが、単語相当の長い単位による調

査も必要である。また、平均変化率について、使用頻度0の観測年をもつ語を対象に加える工夫も必要になる。使用率、均等度（語彙散布度）、平均変化率それぞれの抽出基準をどのように最適化するかについても考えなければならない。このほか、語彙散布度としてどのような指標を採用するかなど、方法論について残された問題は多い。今後の課題としたい。

注

1）「層別」とは、本来、統計調査の標本抽出において対象とする母集団をいくつかの層に分けることを意味する専門用語であるが、ここでは、語彙調査の対象となる文章群をいくつかのカテゴリー（層）に分類するという一般的な意味で用いている。

2）基本語彙の変化を見ようとする場合、調査単位として形態素相当の短い単位と単語（自立語）相当の長い単位のどちらが適当かという問題については議論の余地があるが、今回は大規模なコーパスデータを安定的に解析できる『Web茶まめ』の利用を優先し、「短単位」を採用することとした。なお、同システム（unidic-mecab 1.3.12 ）の新聞を対象とした解析精度は98～99％以上とされている（国立国語研究所コーパス開発センター（2011:65））。

3）この展開式は、木村・山田（1994:5）による。

4）Egbert, Burch & Biber（2020）は、語彙散布度の測定と解釈が言語的に意味のある層別にもとづいて行われるべきであると主張する中で、Gries（2008）のDPを各層の大きさが不揃いのコーパスに対する有効な測定法の一つであると評価している。また、DPを日本語に適用した研究としては、日本語教育のための読解基本語彙の選定に用いた本田（2019）がある。

5）非基本語化の候補語に漢数字２字の数詞が多いのは、『毎日新聞』が1996年から「洋数字表記の使用を拡大」（https://mainichi-kotoba.jp/enq-353）したことと、“Web茶まめ”による数詞の形態素解析が影響しているものと考えられる。

参考文献

石井正彦（2013）「和語・漢語・外来語―基本語彙に見る攻防―」『日本語学』第32巻第11号（明治書院）

樺島忠夫（1980）「語彙」国語学会編『国語学大辞典』（東京堂出版）

樺島忠夫（1981）『日本語はどう変わるか』（岩波書店）

樺島忠夫（2004）『日本語探検――過去から未来へ』（角川書店）

金　愛蘭（2006）「外来語『トラブル』の基本語化：20世紀後半の新聞記事における」『日本語の研究』第2巻第2号（日本語学会）

金　愛蘭（2011）『20世紀後半の新聞語彙における外来語の基本語化』『阪大日本語研究　別冊3号』（大阪大学大学院文学研究科日本語学講座）

金　愛蘭（2022）「現代『語彙史』研究のためのコーパスと統計―『毎日新聞経年コーパス』による語の増減傾向の分析―」『計量国語学』第33巻第4号（計量国語学会）

木村睦子・山田雅一（1994）「基本度関数について」『国立国語研究所報告107　研究報告集15』（秀英出版）

国立国語研究所（1987）『国立国語研究所報告89　雑誌用語の変遷』（秀英出版）

国立国語研究所（2005）『国立国語研究所資料集15　太陽コーパス―雑誌『太陽』日本語データベース―』（博

文館新社）
国立国語研究所コーパス開発センター（2011）『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』マニュアル』（国立国語研究所コーパス開発センター）
田中牧郎（2013）『そうだったんだ！日本語　近代書き言葉はこうしてできた』（岩波書店）
堤 智昭・小木曽智信（2015）「歴史的資料を対象とした複数のUniDic辞書による形態素解析支援ツール『Web茶まめ』」『じんもんこん2015論文集』（情報処理学会）
林　四郎（1969）「新聞語彙調査における層別とその意味」国立国語研究所報34『電子計算機による国語研究Ⅱ』（秀英出版）
本田ゆかり（2019）「コーパスに基づく『読解基本語彙１万語』の選定」『日本語教育』第172号（日本語教育学会）
水谷静夫（1964）「語の基本度」国立国語研究所報告25『現代雑誌九十種の用語用字　第三分冊　分析』（秀英出版）
宮島達夫（1967）「現代語いの形成」国立国語研究所論集３『ことばの研究　第３集』（秀英出版）
森岡健二（1977）「命名論」大野晋・柴田武[編]『岩波講座日本語２　言語生活』（岩波書店）
Eggers, H.（1973）. *Deutsche Sprache im 20. Jahrhundert*, R. Piper.（=1975, 岩崎英二郎（訳）『二十世紀のドイツ語』白水社）
Egbert, J., Burch, B., and Biber, D.（2020）. Lexical dispersion and corpus design. *International Journal of Corpus Linguistics*, 25（1）, 89-115.
Gries, S.（2008）. Dispersions and adjusted frequencies in corpora. *International Journal of Corpus Linguistics,* 13（4）, 403-437.
Juilland, A. and Chang-Rodríguez, E.（1964）. *Frequency dictionary of Spanish words*, The Hague: Mouton.

付記

『Web茶まめ』の利用について公開・提供元の国立国語研究所に、また、『CD－毎日新聞データ集』の利用について提供元の毎日新聞社に感謝申し上げます。本稿は、JSPS科研費 JP18K00612の助成を受けたものです。

（文学研究科教授）